

1. 3月全国行事

- | | |
|-------------|-----------|
| 1) 春の火災予防運動 | 3月1日～3月7日 |
| 2) 建築物防災週間 | 3月1日～3月7日 |
| 3) 車両火災予防運動 | 3月1日～3月7日 |

2. 安全・衛生・防災の心得 : ここに注目 冬期の不安全な状態

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

4. 当社の事故・災害事例から : クレーンフックと回転バスケット吊り上げ部に指を挟まれ骨折

5. その他

2. 安全・衛生・防災の心得 : ここに注目 冬期の不安全な状態

冬期の1月、2月の厳寒期には、他の時期とは異なった「寒冷」が要因となる事故や災害が発生することがあります。近畿以西の比較的温暖な地方でも、思わぬ寒波に見舞われると、普段から想定していなかったため、事故などのトラブルを招いてしまうことがあります。地域を問わず、次のことに注意しましょう。

- ①寒冷による作業手順の省略やハンドポケット、着ぶくれなどによる不安全行動。
- ②電気設備の着雪による断線や電気事故。
- ③積雪及び雪の吹き溜まりによる、排気口などの閉塞による事故。
- ④積雪や凍結による構内通路・道路等の滑り。
- ⑤除雪作業時の転落や除雪機器での事故。
- ⑥換気不良による有害ガスや蒸気などの中毒。
- ⑦機械の潤滑油や冷却水等の凍結や詰まりによる機械や設備の故障や不調。
- ⑧低温で金属等がもろくなり、とくに衝撃力が加わると「低温脆性破壊」の危険。
- ⑨配管やバルブ内等での氷結(体積が約10%増)によるバルブ等の破壊。
- ⑩緊急用の消火用水や救急洗身・洗眼器の凍結。
- ⑪空気の乾燥による静電気の発生とその障害。
- ⑫暖房器具等の火気取り扱いによる火災、など。

これらの冬期特有の事故や火災を防止するため、設備等の点検を徹底し、KY活動やリスクアセスメント等ががっちり実施しましょう。



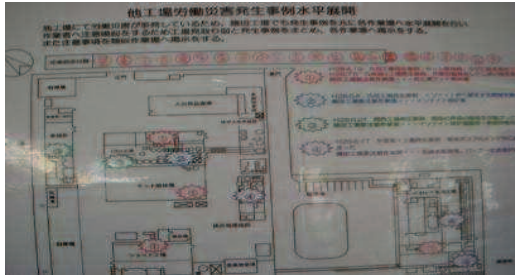
3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

①勝田工場

今期発生した労災と、勝田工場の同リスクのある場所と照合して掲示していました。

②九州第一工場

局排ダクトの更新



4. 当社の事故・災害事例から : クレーンフックと回転バスケット吊り上げ部に指を挟まれ骨折 平成21年3月

(1) 災害のあらまし

- ① パループ脱脂槽に回転バスケットを浸漬しようとした。(脱脂槽には2台投入可)
- ② 既に入っている回転バスケットの位置が少しずれていたため
- ③ 既に入っている回転バスケットを修正しようとホイストクレーンで吊り上げようとした。
- ④ 右手でクレーンフックを持ち、回転バスケットの吊り上げ部に掛け
- ⑤ 慌てていた為、右手人差し指が入っているのに気づかず
- ⑥ 左手でクレーン操作(上昇)を行なったため
- ⑦ 指をクレーンフックと回転バスケット吊り上げ部の間に指を挟んだ。
- ⑧ すぐにクレーンを下げたが、間に合わなかった。

(2) 被災程度 右示指開放性骨折及び圧挫創 全治約3週間

(3) 原因、問題点及び再発防止策

1) 人的要因 ① 右手でフックを持つ位置が悪かった(深く持ちすぎた)

- ② 慣れた作業であり、早く進めようと指がフックと吊具の間にあるのに気付かず
に吊り上げてしまった。
→各班にホイスト使用状況及び安全対策の確認を行なった。

2) 物的要因 ① フックを掴む箇所が狭い為、深く握りすぎて、フックと吊具に手(右手人差し指) が挟まった。

- フックにつまみ部分を取り付け、そこを持つようにする。
→はずれ止め等の対策検討。

3) 管理的要因 ① フックに対しての注意事項の掲示がなかった。

- 改善したフックの持ち方を掲示し、再発を防止する。(作業ポイントの作成掲示)
→ホイストクレーン作業要領書の改訂を行なった。

(4) 環境安全部から

- ① 慣れた作業にも落とし穴があります。クレーン作業時等は常に集中しましょう。
- ② 慌てないで、落ち着いて作業しましょう。

5. その他

<省エネについて>

必要な場所では点灯を行い、不必要な場所は消灯を行なうなど、無理のない省エネ活動を行なって下さい。

「資源は有限！ 工夫は無限！ 取り組む姿勢が未来を作る！」 H28年度環境保全最優秀作品